

令和7年度シラバス(第二看護学科)

31期生 1年次

授業科目	情報科学	担当教員	幡谷 泰史：(28) 三浦 理：(2)	単位	1	学習時間数	30
目的	情報化社会における学習能力の基盤となる、情報機器の操作の基本や、情報通信技術(ICT)の利用や活用技術の基本を理解する。						
目標	1 情報処理のためのパソコンの操作を理解する。 2 ICTを活用するための知識や技術を理解する。 3 基本的な統計データの整理の仕方・統計資料の読解方法の基礎を理解する。						
回	項目	内 容				教授学習方法	備考
1	コンピューターの基礎知識 メールソフト、文書作成ソフトの使い方	1 パソコン操作の基本 (1) 基本操作 (2) アカウント管理(ログイン、ログアウトの方法) (3) トラブルへの対応 (4) インターネット検索 2 メールの基本 (1) 文章の編集方法 (2) メッセージの送受信 (3) メールマナー 3 Wordの基本 (1) 文章の編集方法 (2) ページ設定の方法(文字数、行数、余白、フォント) (3) 表の作成、オートシェイプの挿入 (4) タイピング 4 プリンタの使い方				講義 (情報機器の利用)	
2	表計算ソフトの 使い方	1 Excelの基本 (1) 表計算 (2) 関数の利用 (3) セルの詳細設定 (4) グラフの作成(折れ線グラフ、円グラフ、帯グラフ)				講義 (情報機器の利用)	
3							
4	コンピューターの基礎知識 情報セキュリティ 情報倫理	1 個人情報の保護 (1) パスワードの管理 (2) USBの管理 2 セキュリティ (1) パソコンやインターネットを利用する上での危険性と対策(コンピューターウイルス、セキュリティホール) 3 インターネットリテラシー (1) 著作権や情報保護に関する法律 (2) SNSの利用について (3) ネットワークエチケット				講義 (情報機器の利用)	荻市民病院 三浦 理
5	統計の基礎	1 統計の基礎知識 (1) 基本統計量(範囲、平均、最大、最小、分散、標準偏差) (2) データの整理 (3) 相関(度数分布とヒストグラム、正規分布、散布図) (4) 仮説検定(帰無仮説、対立仮説、有意水準、棄却域、片側検定と両側検定、 χ^2 検定、分割表による検定)				講義 (情報機器の利用)	
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14	プレゼンテーションソフトの 使い方	1 Power Pointの基本 (1) プレゼンテーションの方法、基本 (2) 基本操作、アニメーションの設定 (3) プレゼンテーション資料の作成 (4) 配布資料の印刷 2 プレゼンテーションの実践				講義 (情報機器の利用) プレゼンテーション	
15	試験						

評価の方法：試験・参加状況等 幡谷(100点)

テキスト：資料配布

令和7年度シラバス(第二看護学科)

31期生 1年次

授業科目	生命と倫理	担当教員	田中 昌子	単位	1	学習時間数	30
目的	生命や医療にまつわる生命倫理の立場から、様々な医療環境における問題を考える力を学ぶ。						
目標	正確な知識と理解に立って問題を捉えることの重要性を学ぶ。						
回	項 目	内 容				教授学習方法	備考
1	倫理学の基本的な考え方	1 倫理・倫理学とはなにか				講義 グループワーク	
2		2 倫理理論					
		3 他者理解と対話のための理論					
3	生命倫理	1 生命倫理とはなにか				講義 グループワーク	
4		2 生命倫理の理論					
5		3 看護職の責務					
6	生殖の生命倫理	1 性の生命倫理				講義/DVD グループワーク	
7		2 生殖の生命倫理					
8		3 生殖の生命倫理（医療的介入）					
9	死の生命倫理	1 死について				講義 グループワーク	
10		2 死と医療					
11		3 死についての生命倫理の課題					
12	先端医療と制度をめぐる生命倫理	1 移植医療				講義 グループワーク	
13		2 再生医療					
		3 遺伝子医療					
14		4 医療資源と医療保険制度					
		5 薬害問題					
15	試験						

評価の方法：筆記試験

テキスト：系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院

図書室にあるDVD：『終わりのない生命の物語-CASE1 わたしたちの選択 出生前検査』(12分)

図書室にあるDVD：『終わりのない生命の物語-CASE5 見えない終止符 不妊治療』(12分)

令和7年度シラバス（第二看護学科）

31期生 1年次

授業科目	心理学	担当教員	川崎 徳子	単位	1	学習時間数	30
目的	総合的に人間をとらえるために人間の心理や行動の理解の仕方を学ぶ。また、社会の理解に通じる社会心理学を学ぶ。他者を理解するためには、まず自分自身を知り、自己の感情コントロール方法を理解する。						
目標	医療に携わる人として、自分を見つめることにより、他者である患者の気持ちをくみとることができる。						
回	項 目	内 容				教授学習方法	備 考
1	心理学	心理学の対象 心の見方の歴史				講義	
2	知覚の心理	知覚の成立 知覚の種類 知覚研究の応用					
3	記憶の心理	記憶の諸相 忘却の心理 記憶のくふう					
4	思考・想像・言語の心理	思考・想像の心理 言語の心理					
5	知能の心理と知能検査	知能の心理 知能検査					
6	学習の心理	学習の心理 練習の心理					
7	感情・情緒・情操の心理	感情の諸相 感情・情緒異常					
8	適応の心理	人と環境 適応・不適応 適応の機制					
9	性格の心理と性格検査	性格の形成 性格の理解					
10	集団の心理	集団の形成と機能 集合行動					
11	発達の心理	発達の原理 発達段階の特徴					
12	発達の心理	発達の原理 発達段階の特徴					
13	カウンセリング	カウンセリングの意義 カウンセリングの方法					
14	医療と心理学	医療と心理学の役割 患者の心理					
15	試験						

評価の方法 : 筆記試験(100点)

テキスト : 系統看護学講座 基礎分野 心理学 医学書院

令和7年度シラバス（第二看護学科）

31期生 1年次

授業科目	医療英語	担当教員	中村 幸士郎	単位	1	学習時間数	30
目的	医療現場で英語を使用しなければならない場面に遭遇したときに冷静かつ適切に対応できる。						
目標	1 医療現場で英語を使わなければならない場面になったとき、日本語がわからない患者に不安を与えないよう冷静に対応できる。 2 言葉がわからず、不安を覚えている外国の方々に的確に対応するために、診察に必要な不可欠な情報の授受を行う基本的な英語表現を実際の場面の中で練習する。						
回	項目	内 容				教授学習方法	備 考
1	医療英語と英会話	医療英語学習への導入				講義・演習	
2	医療英語と英会話	Outpatient's First Visit				講義・演習	
3	医療英語と英会話	Medical History				講義・演習	
4	医療英語と英会話	Asking about Symptoms				講義・演習	
5	医療英語と英会話	Asking Exactly What the Matter Is				講義・演習	
6	医療英語と英会話	Directions around the Hospital				講義・演習	
7	医療英語と英会話	Emergency Patients				講義・演習	
8	医療英語・試験	Marking an Appointment. Test				講義・演習	
9	医療英語と英会話	Measurements				講義・演習	
10	医療英語と英会話	Basic Tests				講義・演習	
11	医療英語と英会話	Detailed Examinations				講義・演習	
12	医療英語と英会話	Rehabilitation				講義・演習	
13	医療英語と英会話	Pre- and Post-Operation				講義・演習	
14	医療英語と英会話	Daily Patient Observations				講義・演習	
15	期末試験	Test				試験	

評価の方法 : 試験2回（100点満点とする試験）・平常点（出席、英会話等）

テキスト : 現場ですぐに役立つ！看護・医療スタッフの英語 朝日出版社

令和 7 年 度 シ ラ バ ス (第二看護学科)

31期生 1年次

授業科目		社会生活論	単位	I	学習時間数	15
担当 教員			実務経験		主な実務経験場所	
	非常勤講師（15）		○有・無		備考参照	
目的	豊かな人間性を養い、相手を尊重した態度で接することのできる社会人基礎力を高める。					
目標	1 相手を尊重できる接遇の方法を学ぶ。 2 ビジネスマナーの基本を学び、コミュニケーション能力を高める。 3 人の心を感じ取ることのできる感性を養う。 4 社会人としての教養を身につける。					
回数	項目	内 容			教授学習方法	担当講師
1	接遇	基本的なマナー			講 義 演 習	波多野医院 波多野加保理
2	ホスピタリティ	1 おもてなしのころを知る			講 義	ケイ・アン ド・ワイ 秋穂 由香
3		2 おもてなしのコミュニケーション			講 義	
4		3 聞き方・話し方			講 義 演 習	
5	表現（音楽）	1 人と音楽			講 義	Music&Arts ウィンディ 山根 浩志
6		2 看護と音楽の関連			講 義 演 習	
7		3 音楽療法			講 義 演 習	
8		4 サマーコンサート			演習 試験	

評価の方法：筆記試験 秋穂先生 (50点)、山根先生 (50点)

令和 7 年 度 シ ラ バ ス （ 第 二 看 護 学 科 ）

31期生 1 年次

授業科目	健康と運動	担当教員	岡野 亮介	単位	1	学習時間数	15
目的	運動が身体に及ぼす影響を理解し、身体運動を通して健康の維持推進を学ぶ。						
目標	1 健康と運動について理解する。 2 運動適応のメカニズムを理解する。						
回	項 目	内 容				教授学習方法	備 考
1	健康阻害要因	現代社会における健康阻害要因であるストレス、休養の喪失、運動不足、栄養の偏り、過剰摂取等について概説する。				資料を用いて講義し、授業の最後に関連したビデオを鑑賞させる。	
2	運動と栄養	5大栄養素と運動の関係、グリコーゲンローディング、筋肉づくりのための食事の摂取タイミングと睡眠、活性酸素の影響と抗酸化作用のある食品等について説明する。				資料を用いて講義し、授業の最後に関連したビデオを鑑賞させる。	
3	溺死について	溺死の原因（気管内吸水説、錐体内出血説、不整脈説、パニック説、ノーパニック症候群等）とその予防法について説明する。				資料を用いて講義し、授業の最後に関連したビデオを鑑賞させる。	
4	スポーツビジョン・スポーツ歯学	スポーツビジョンの測定方法（8種類）を説明し、瞬間視力の測定については体験させる。また、歯の健康度とスポーツ活動との関係について理解させる。				資料を用いて講義し、授業の最後に関連したビデオを鑑賞させる。	
5	骨粗鬆症	骨密度について概説し、骨粗鬆症の発生原因及び予防方法を身体運動と栄養摂取に基づいて説明する。				資料を用いて講義し、授業の最後に関連したビデオを鑑賞させる。	
6	睡眠と生体リズム	レム睡眠、ノンレム睡眠、体内時計、生体リズムと学習、身体運動及び健康との関係を説明する。また、各種の睡眠障害について説明する。				資料を用いて講義し、授業の最後に関連したビデオを鑑賞させる。	
7	喫煙と身体活動	喫煙および副流煙の身体に及ぼす影響、喫煙によって発症する疾病及び禁煙方法について説明する。また、喫煙の身体活動に及ぼす影響について説明する。				資料を用いて講義し、授業の最後に関連したビデオを鑑賞させる。	
8	試験						

評価の方法：授業態度、各授業での小テスト及び最終テストにより総合的に評価（100点）

テキスト：なし

参考文献：なし

令和7年度シラバス（第二看護学科）

31期生 1年次

授業科目	解剖学	担当教員	柳井 和年	単位	I	学習時間数	30
目的	人体を系統的に学習し、看護する上で必要な人体の構造を学ぶ。						
目標	1 消化器系の解剖を理解する。 2 循環器系の解剖を理解する。 3 呼吸器系の解剖を理解する。 4 血液・造血機能系の解剖を理解する。 5 腎・排泄系の解剖を理解する。 6 内分泌系の解剖を理解する。 7 神経系の解剖を理解する。 8 感覚器系の解剖を理解する。 9 免疫系の解剖を理解する。						
回	項目	内 容				教授方法	備 考
1	体液	体液・リンパ・間質液				講義	
2	消化器	口腔・咀嚼・嚥下・胃・胃液				講義	
3		腸・栄養素・膵臓・肝臓				講義	
4	呼吸	肺・上気道・気管・気管支				講義	
5	循環	心臓・冠動脈・体循環				講義	
6		肺循環・血管・動脈・静脈				講義	
7	血液	骨髄・造血				講義	
8	尿生成・排泄	腎・尿管・膀胱・尿道				講義	
9		排泄機序				講義	
10	内分泌	視床下部・甲状腺・上皮小体				講義	
11	神経系	膵臓・副腎・性腺・分泌調節・脳・脊髄				講義	
12	自律神経	脳・脊髄・脊髄神経・自律神経				講義	
13	視覚・聴覚	視力・視野・色覚・調節・音・聴覚				講義	
14	生体防御	非特異的防御・免疫・抗体				講義	
15	体温調節	体温調節・発熱・高体温				講義	
	試験						

評価の方法 : 筆記試験 100点

テキスト : 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能Ⅰ 解剖生理学 医学書院

令和7年度シラバス(第二看護学科)

31期生 1年次

授業科目		生理学		単位	I	学習時間数	30
担当教員	非常勤講師	実務経験	○有・無	主な実務経験場所		備考参照	
目的	生物が生きていく仕組みを系統的に学習し、看護する上で必要な人体の機能を学ぶ。						
目標	1 消化器系の生理を理解する。 2 循環器系の生理を理解する。 3 呼吸器系の生理を理解する。 4 血液・造血機能系の生理を理解する。 5 腎・排泄系の生理を理解する。 6 内分泌系の生理を理解する。 7 神経系の生理を理解する。 8 感覚器系の生理を理解する。 9 免疫系の生理を理解する。						
回	項目	内容			教授方法	備考	
1	体液	体液・体液調節・PH・脱水・浮腫			講義	訪問看護ステーションこころの樹 クリティカルケア認定看護師 日本DMAT隊員 磯本 一夫	
2	消化器	口腔・咀嚼・嚥下・胃・胃液			講義		
3		腸・栄養素・膵臓・肝臓・排便			講義		
4	呼吸	呼吸運動・呼吸気量・ガス交換・呼吸調節			講義		
5	循環	心拍出・ECG・心収縮			講義		
6		血圧・血圧調節・循環系の病態生理			講義		
7	血液	赤血球・Hb・白血球・血小板・血沈・凝固・血液型			講義	長門総合病院 看護師：高村 美沙	
8	尿生成・排泄	尿生成機序・GFR・生理活性物質			講義	長門総合病院 看護師：三笠 優子	
9		排泄機序・尿成分・尿性状・排尿異常			講義		
10	内分泌	作用機序・視床下部・甲状腺・上皮小体			講義	長門総合病院 看護師：岡本 香子	
11	神経系	膵臓・副腎・性腺・分泌調節・脳・脊髄			講義	訪問看護ステーションこころの樹 クリティカルケア認定看護師 日本DMAT隊員 磯本 一夫	
12	自律神経	脳・脊髄・脊髄神経・脳高次機能 自律神経・伝達物質			講義		
13	視覚	視力・視野・色覚・遠近調節			講義	さがら眼科クリニック 医師：相良 健	
14	聴覚	音・聴覚			講義	都志見病院 医師：岡崎 英紀	
15	生体防御	非特異的防御・免疫・抗体			講義	長門総合病院 看護師：河内 享介	
		体温調節・発熱・高体温			講義		
	試験				試験		

評価の方法：筆記試験 磯本先生（60点）、長門総合病院の先生（40点）

テキスト：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能Ⅰ 解剖生理学 医学書院

令和 7 年 度 シ ラ バ ス (第二看護学科)

31期生 1 年次

授業科目	生化学	担当教員	村上 柳太郎	単位	1	学習時間数	20
目的	生命現象の基礎を一連の化学反応として理解し、生体の恒常性を維持する蛋白質・糖質・脂質の構造やエネルギー代謝について学ぶ。						
回	項 目	内 容				教授学習方法	備考
1・2	生化学を学ぶための基礎知識	生化学とは 生体の化学の基礎知識 生命とは 細胞の構造と機能				講義	
3	代謝の基礎と酵素・補酵素	代謝と生体のエネルギー 酵素の基礎知識 補因子 ビタミン 酵素の反応速度 酵素の阻害				講義	
4・5	糖質の構造と機能 糖代謝	糖質とは 単糖の構造と機能 二糖の構造と機能 多糖の構造と機能 糖質の消化と吸収 グルコースの分解 グリコーゲン代謝 ペントースリン酸経路 糖新生 ガラクトース、マンノース、フルクトースの分解 糖質代謝に関する遺伝性疾患				講義	
6	脂質の構造と機能 脂質代謝	脂質とは 脂質の種類 リポタンパク質 脂質の消化と吸収 脂肪酸の分解 脂質の合成 脂質代謝に関する遺伝性疾患				講義	
7	タンパク質の構造と機能 タンパク質代謝	タンパク質とは アミノ酸 タンパク質の構造 タンパク質の消化と吸収 アミノ酸の分解 非必須アミノ酸の合成				講義	
8	遺伝子と核酸	遺伝情報 遺伝学の基礎知識 核酸の構造と機能 核酸の代謝				講義	
9	遺伝子の複製・修復・組換え・転写と翻訳	DNAの複製 DNAの修復 DNAの組換え DNA修復機構の異常による遺伝性疾患 遺伝子多型				講義	
		転写とは 転写の開始とRNA 鎖の伸長 転写の終結 RNAのプロセシング 遺伝子の発現調節				講義	
10	がん	がんの性質 細胞周期とがん がん遺伝子 がん抑制遺伝子 染色体転座 がん薬物療法				講義	
	試験					試験	

評価の方法：筆記試験

テキスト：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能2 生化学 医学書院

令和7年度シラバス(第二看護学科)

31期生 1年次

授業科目		病理学		単位	I	学習時間数	30
担当教員	非常勤講師（医師）	実務経験	○・無	主な実務経験場所		備考参照	
目的	基本的な病変の原因、発生機序、形態的变化を学ぶ。						
目標	基本的な病変の原因、発生、機序の形態的变化を理解し、診断治療検査について理解する。						
回	項 目	内 容			教授学習方法		備考
1～2	病理学で学ぶこと	病理学で学ぶこと・病気の現認			講 義		むつみ診療所 医師：前川恭子
	病理検査	細胞診、組織診、迅速検査、病理解剖					
	生活習慣と環境因子による生体の障害	生活習慣・放射線による生体の障害、中毒					
3～4	細胞・組織の障害と修復	細胞の損傷と適応、組織の修復と創傷治癒			講 義		
	代謝障害	物質の沈着、脂質代謝障害と疾患、たんぱく質代謝障害と疾患					
5～6	循環障害	局所の循環障害			講 義		須佐診療センター 医師：廣川慎一
		全身の循環障害					
7～8	炎症と免疫、膠原病	炎症、免疫			講 義		むつみ診療所 医師：前川恭子
		自己免疫性疾患、膠原病、移植					
9～10	感染症	宿主の防御機構、治療			講 義		
11～12	腫瘍	腫瘍の発生病理、悪性腫瘍			講 義		須佐診療センター 医師：廣川慎一
	老化と死	老化、個体の死、緩和医療					
13～14	先天異常と遺伝子異常	先天異常			講 義		むつみ診療所 医師：前川恭子
		遺伝性疾患					
15	試験						

評価の方法：筆記試験 前川先生(70点)、廣川先生(30点)

テキスト：系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 | 病理学 医学書院

系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 | 解剖生理学 医学書院

令和 7 年 度 シ ラ バ ス (第 二 看 護 学 科)

31期生 1 年次

授業科目		病態生理学		単位	I	学習時間数	15
担当教員	非常勤講師	実務経験	有・無	主な実務経験場所		備考参照	
目的		基本的な症状や疾病について、生理機能やそのどこが障害されて病態や症状が生じているか理解する。					
目標		正常機能が破綻し、症候が現れるまでの過程が理解できる。					
回	項 目	内 容			教授学習方法	備 考	
1	免疫・免疫の仕組みと病態生理 体液調節のしくみと病態生理	1 免疫のしくみと免疫反応：自己免疫疾患 1 体液・電解質とその異常 2 酸・塩基平衡の異常			講義	長門総合病院 クリティカルケア特定 行為看護師 中谷 ますみ	
2	血液のはたらきと病態生理	1 骨髄の機能とその障害：汎血球減少症 2 赤血球・白血球の機能とその障害：貧血・白血病 3 血小板と出血傾向：播種性血管内凝固（DIC）			講義	長門総合病院 がん化学療法看護認定 看護師 池永 良子	
3	循環のしくみと病態生理	1 心臓のポンプ機能：心不全 2 血圧調整と末梢循環の障害：ショック・深部静脈血栓症・チアノーゼ			講義	長門総合病院 看護師 大野 真琴	
4	呼吸のしくみと病態生理	1 呼吸器系の防御機能障害：咳嗽と喀痰・肺炎 2 換気の障害：慢性呼吸不全・閉塞性肺疾患			講義	長門総合病院 看護師長 感染管理認定看護師 松田 純一	
5	消化吸収のしくみと病態生理	1 咀嚼・嚥下の障害：誤嚥性肺炎 2 胃腸管の障害：腸閉塞 3 消化吸収の障害：急性腹症 4 肝臓・胆嚢とその障害			講義	長門総合病院 消化器内視鏡技師 米原 みほ子	
6	腎・泌尿器のしくみと病態生理 内分泌・代謝のしくみと病態生理	1 腎臓の障害：腎不全 2 泌尿器の機能の障害：通過障害 1 内分泌のしくみとその異常：甲状腺機能亢進症 2 代謝とその異常：糖尿病による障害			講義	長門総合病院 看護師 大石 美江	
7	脳・神経・筋肉のはたらきと病態生理	1 脳循環のしくみとその障害：脳血管疾患 2 髄膜・髄液のはたらきとその障害：水頭症 3 意識と認知の障害：認知症 4 運動制御のしくみとその障害：パーキンソン病 ALS			講義	長門総合病院 がん放射線看護認定看護 師 増野 竜太郎	
8	試験						

評価方法 : 筆記試験100点

テキスト : 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 2 病態生理学 医学書院
系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 1 病理学 医学書院

令和 7 年 度 シ ラ バ ス （ 第 二 看 護 学 科 ）

31期生 1年次

授業科目	微生物学	担当教員	大塚 仁：(14) 下田 宙：(16)	単位	1	学習時間数	30
目的	微生物の特徴と生体に及ぼす影響を理解し、その予防と治療について学ぶ。						
目標	微生物の特性と生体に及ぼす影響を理解し、感染症の予防と治療に対して微生物学的知識に基づいた看護を実践できる。						
回数	項目	内 容			教授学習方法	備 考	
1～8	ウイルス学総論	ウイルスの特性と定義、構造 ウイルスの増加、分類 ウイルスと宿主のかかわりあい ウイルス感染症の予防と治療			講義	山口大学 共同獣医学部 下田 宙	
	免疫学	免疫の種類、免疫系と免疫応答、抗原とは 抗原の認識、液性免疫、細胞性免疫 感染防御免疫、免疫病					
	ウイルス学各論	ヘルペスウイルス、インフルエンザウイルス エンテロウイルス、ロタウイルス、カリシウイルス H I V、肝炎ウイルス					
	真菌学 原虫学	真菌学、原虫学総論、各論					
9～15	微生物学総論	微生物学の歴史、分類 細菌の特性 感染と発病、予防 滅菌と消毒 化学療法・抗生物質 細菌学的検査法			講義	山口県環境保健 センター 大塚 仁	
	細菌学各論	グラム陽性球菌 グラム陰性球菌 グラム陰性好気性桿菌 グラム陰性通性嫌気性桿菌 グラム陽性無芽胞桿菌 グラム陽性芽胞形成桿菌 スピロヘータ カンピロバクター リケッチア クラミジア マイコプラズマ					
	試験						

評価の方法：筆記試験 下田先生（50点）、大塚先生（50点）

テキスト：系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 4 微生物学 医学書院

令和7年度シラバス（第二看護学科）

31期生 1年次

授業科目		保健医療論		単位	I	学習時間数	15
担当教員	藤井 早苗	実務経験	有・無	主な実務経験場所		山口県立総合医療センター	
目的	対象がその人らしい生活を送ることを支えるために、保健医療福祉を取り巻く社会環境の変化をふまえ、現状と課題について学ぶ。						
目標	1 医療や看護の原点について理解する。 2 医学の歴史と科学としての医学について考える。 3 わが国の保健・医療・介護の現状を知る。 4 現代の医療にかかわる諸問題について理解する。 5 社会全体の視点で医療を考える。						
回	項 目	内 容				教授学習方法	
1・2	保健医療論の概要	保健医療論の位置付けと学習目標				講義・ ディスカッション	
	生きることと死ぬこと	1 生命を尊ぶ心 2 健やかに生きる 3 老いてこそ人生 4 おだやかに死ぬことー終末期を考える					
	医学と医療	1 医学の歴史 2 臨床疫学とEBM				講義・ ディスカッション	
3・4・5	保健・医療・介護一切れ目ないサポートの実現	1 保健・医療・介護を取り巻く社会環境の変化 2 社会保障制度 1) 社会保険 2) 公的扶助 3) 社会福祉 3 公衆衛生と保健 1) 公衆衛生の概要 2) 感染症対策 3) 母子保健 4) 学校保健 5) 産業保健 6) 精神保健 7) 環境保健 8) 国際保健 9) 生活習慣病等予防 4 わが国の医療システム 1) 病院と診療所 2) 医療従事者 3) 受診から入院まで 4) 地域医療連携 5 救急医療・集中治療 6 がん治療 7 周産期医療 8 放射線診断 9 チーム医療 10 リハビリテーション 11 介護				講義・GW ディスカッション	
6	医療と社会	1 医の倫理 2 医療安全 3 医薬品 4 最先端医療 5 医療情報				講義・GD	
7	医療経済学と医療政策	1 経済学を用いて医療を読みとく 2 転換を迫られる医療政策				講義・GD	
	試験						

留意事項：事前準備・事後まとめを行うこと

評価の方法：筆記試験（80点）／レポート・課題他（20点）

テキスト：系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度Ⅰ 医療概論 医学書院

国民衛生の動向 厚生統計協会

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学Ⅰ 看護学概論

参考文献：看護業務基準集 他

令和7年度シラバス(第二看護学科)

31期生 1年次

授業科目		看護学概論	単位	I	学習時間数	30
担当 教員			実務経験	主な実務経験場所		
	伊藤 加奈恵(6)		(有)・無	山口県立総合医療センター		
	林 千恵子(24)		(有)・無	山口県立総合医療センター		
目的	看護の根幹となる看護の概念を学ぶ。					
目標	1 看護とはどのような実践であるかについて、看護の本質を理解する。 2 看護の定義、看護の概念について理解する。 3 看護の対象者としての人間と健康と生活について理解を深める。 4 職業としての看護、看護職者の倫理等をふまえて看護のあり方を理解する。					
回	項 目	内 容		教授学習方法	備考	
1	看護の本質	1 看護の本質 (1) 看護の定義 保健師助産師看護師法における看護の定義 看護職能団体による看護の定義 (2) 看護者の規程・看護の使命・看護の対象		講義	伊藤	
2 3	看護理論家の概念	2 看護の理論家にみる看護の定義 3 看護理論家の看護の概念モデル (人間、健康、環境、看護) フローレンスナイチンゲール ヘンダーソン オレム トラベルビー 他		講義 グループワーク		
4 5	人間のとらえ方	1 人間の理解 (1) 人間のこころとからだ (2) 生涯発達しつづける存在としての人間 (3) 人間の暮らし		講義		
6	国民の健康状態と生活	1 健康のとらえ方 (1) 健康とは (2) 障害とは		講義	林	
7		2 健康と生活		グループワーク		
8		3 国民の健康状態				
9	現在の家族と ライフサイクル	4 国民のライフサイクル		講義 グループワーク		
10 11 12	職業としての看護	1 職業としての看護 (1) 職業としてのはじまり(明治から大戦終結まで) (2) 職業としての看護の確立(終戦時から昭和中期) (3) 職業としての看護の充実(昭和後期から平成初期) (4) 職業としての看護の新たな展開(現在) 2 看護職の養成と就業状況 (1) 法的な規制・各看護職の養成制度と就業状況 3 看護者の教育とキャリア開発 (1) 看護基礎教育・継続教育 (2) 専門看護師・認定看護師 (3) 看護職者の教育とキャリア開発における今後の課題 4 看護職者の養成制度の課題 (1) 看護職者養成・教育体制の充実 (2) 医療における安全の確保と看護職者養成・教育		講義 グループワーク		
13 14	看護における倫理	1 現代社会と倫理 2 看護倫理 3 看護実践における倫理問題への取り組み		講義		
15	試験					

評価の方法：筆記試験(100点：伊藤20点 林80点)

テキスト：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学Ⅰ 看護学概論 医学書院

参考文献：看護覚え書 日本看護協会出版会

看護のための人間発達学 医学書院

国民衛生の動向2023/2024 厚生統計協会

令和 7 年 度 シ ラ バ ス (第 二 看 護 学 科)

31期生 1年次

授業科目		基礎看護技術Ⅰ (共通基本技術)		単位	1	学習時間数	30
担当教員	戸川 優子	実務経験	有・無	主な実務経験場所		山口県立総合医療センター	
目的	看護を実践するための基盤となる知識・技術・態度を養う。						
目標	1 看護実践に必要な基本的技術の概念を理解する。 2 看護の対象のニーズを的確に把握する能力を身につける。 3 看護活動を安全・安楽に能率的に行う技術を身につける。 4 フィジカルアセスメントの意義、基本技術を理解する。						
回	項 目	内 容				教授学習方法	備考
1	看護技術とは	1 看護技術とは 2 看護技術の基本原則 3 看護基礎教育における技術教育 4 看護技術を習得するための段階的学習				講義	
2	コミュニケーション 技術	1 看護におけるコミュニケーションの意義と目的 2 コミュニケーションの構成要素と成立過程 3 関係構築のためのコミュニケーションの基本 4 効果的なコミュニケーションの実践 (1) 傾聴の技術 (2) 情報収集の技術 (3) 説明の技術				講義 演習	
3		5 看護場面の再構成					
4	安全・安楽	1 看護における安全 2 医療安全の概念と安全管理 (1) リスクマネジメントとセーフティマネジメント (2) インシデント・アクシデントレポート 3 医療事故発生要因と防止の技術 (1) 誤薬・誤認防止 (2) 転倒・転落の防止 4 事故防止における看護師の行動 5 看護における安楽				講義 演習	
5・6		6 感染防止の基礎知識 7 感染防止対策の基本 8 感染防止の技術 (1) スタンダードプリコーション (2) 無菌操作					
7	観察技術	1 観察の目的 2 観察の方法				講義 演習	
8		3 フィジカルアセスメントとは 4 フィジカルアセスメント5つの基本技術					
9・10		5 バイタルサインの観察とアセスメント					
11・12		6 フィジカルアセスメントの実践 (1) フィジカルイグザミネーション (2) バイタルサイン測定					
13	記録と報告	1 看護記録における看護の責務 2 看護記録の目的および意義 3 看護記録の構成要素 4 看護記録の記載基準 5 看護記録の保存期間 6 実習記録の取り扱い 7 看護における報告の意義 8 報告の方法 9 看護場面における報告の種類				講義	
14	指導技術	1 看護における学習支援 2 学習支援の基礎知識 3 学習に影響する因子 4 自己効力感を高めるためのかわり 5 学習支援の技術				講義 演習	
15		6 指導案の作成					
	試験						

評価の方法：筆記試験（85点）、受講状況・指導案作成（15点）

テキスト：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学Ⅱ 基礎看護技術Ⅰ 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学Ⅲ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院
 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院
 看護のためのフィジカルアセスメントアドバンス インターメディカ
 臨床看護の本質 現代社

令和 7 年 度 シ ラ バ ス (第 二 看 護 学 科)

31期生 1年次

授業科目		基礎看護技術2 (日常生活援助技術演習)		単位	I	学習時間数	45
担当教員	戸川 優子	実務経験	(有)・無	主な実務経験場所		山口県立総合医療センター	
目的	原理原則に基づいた日常生活援助技術を養う。 人が営む生活行動を、体の構造と機能から学ぶ。						
目標	1 人の日常生活・生活行動は、どのような体の機能(仕組み)を使っているのか理解する。 2 体の仕組みが障害されたとき、病を持ったときの体の変化が、日常生活行動にどう影響するのかを理解する。 3 快適な日常生活を過ごすことができるように、病床環境を適切に整える援助技術を身につける。 4 人にとって身体の清潔・衣生活の意義を理解し、身体各部位の清潔・衣生活への援助技術を身につける。 5 活動と休息が身体に及ぼす影響と効果を理解し、効果的な活動と休息ができる援助方法を学ぶ。 6 対象に適した食事を、その人らしく摂取できるようにする援助技術を学ぶ。 7 対象の状態を考慮し、安全・安楽で自然に排泄できる援助技術を学ぶ。 8 人にとっての死について考え、尊厳ある死を迎える援助について学ぶ。						
回	項 目	内 容				教授学習方法	備考
1	イントロダクション	ガイダンス 1 看護形態機能学とは 2 基礎看護技術2での講義・演習内容について				講義	
2・3・4	生活環境を整える援助	1 生活環境とは 2 療養生活の環境 3 病室の環境のアセスメントと調整 4 病床、病床環境の整備 (1) ベッドメイキング (2) リネン交換				講義 演習	技術試験 リネン交換
5・6	身体の清潔を保つ援助 衣生活の援助	1 清潔援助の基礎知識 (1) 皮膚・粘膜の構造 (2) 人にとって「お風呂に入る、身だしなみを整える」とは (3) 「お風呂に入る、身だしなみを整える」を支える形態と機能				PBL 講義 演習	技術試験 全身清拭・寝衣交換 陰部洗浄
7・8・9		2 皮膚・粘膜の構造並び清潔行動のアセスメント 3 清潔援助の実際 (1) 足浴 (2) 全身清拭 (3) 陰部洗浄					
10		4 衣生活援助の基礎知識 (1) 衣生活に関するニーズのアセスメント (2) 病衣の選び方 (3) 寝衣交換の実際					
11	食べることへの援助	1 食事の基礎知識 (1) 「食べる」ことを支える器官の成り立ち (2) 人にとって「食べる」とは (3) 「食べる」を支える形態と機能				PBL 講義 演習	
12		2 食事の基礎知識 (1) 食べることの意義 (2) 「食べる」のアセスメント					
13		3 食事の援助 (1) 食事セッティング・食事全介助・部分介助 (2) 口腔ケア					

令和7年度シラバス（第二看護学科）

31期生 1年次

授業科目		基礎看護技術3 (診療の補助技術)		単位	1	学習時間数	30
担当教員	戸川 優子	実務経験	有・無	主な実務経験場所		山口県立総合医療センター	
目的	診療および治療が効果的に進むための看護技術の基礎を養う。						
目標	1 診察の目的と内容を理解し、対象が安全・安楽に診療を受けられるための技術を身につける。 2 治療過程が効果的に進むための援助の実際と看護者の役割について理解する。						
回	項 目	内 容				教授学習方法	備考
1	治療・処置	1 導尿				講義 演習	技術試験 導尿
2・3		(1) 一時的導尿とその実際					
4		(2) 持続的導尿					
5	与薬	1 与薬に関する基礎知識 2 与薬における看護師の責任と役割 3 正しい与薬 (1) 6Rの確認 (2) ダブルチェック				講義 演習	技術試験 点滴静脈内注射
6		4 与薬の実際 (1) 経口与薬・口腔内与薬 (2) 直腸内与薬 (3) 吸入 (4) 点眼 (5) 点鼻 (6) 経皮的与薬					
7		5 注射 (1) 注射の基礎知識					
8		(2) 皮下注射・皮内注射 (3) 筋肉内注射					
9		(4) 静脈内注射 (5) 点滴静脈内注射					
10	検査	1 診察・検査時の看護師の役割 2 対象者の心理 3 検査の介助に関する基礎知識 4 検体の採取とその取り扱い (1) 尿・便検査 (2) 喀痰検査 (3) 血液検査				講義 演習	内視鏡検査・ 骨髄穿刺は成人看護学で学習する
11		5 検査の介助 (1) X線検査、CT、MRI、核医学 (2) 超音波 (3) ECG、肺機能 (4) 腰椎・胸腔・腹腔穿刺					
12	治療・処置	1 治療・処置時の看護師の役割 2 対象者の心理 3 酸素療法(酸素吸入療法) (1) 鼻カニューレ、酸素マスク				講義 演習	
13		4 排痰ケア (1) 体位ドレナージ、咳嗽介助 (2) 一時的吸引 (3) 持続吸引(胸腔ドレナージ)					
14		5 罨法 6 創傷管理技術 (1) 創傷管理の基礎知識 (2) 創傷処置、包帯法 (3) 褥瘡予防					
15		7 輸血管理 8 経管栄養法・経静脈栄養法					
	試験						

評価の方法：筆記試験（50点）、技術試験：導尿（20点）・点滴静脈内注射（30点）

テキスト：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ 医学書院
 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院

令和7年度シラバス（第二看護学科）

31期生 1年次

授業科目		基礎看護技術4 (看護過程)		単位	1	学習時間数	30
担当教員	戸川 優子	実務経験	(有)・無	主な実務経験場所		山口県立総合医療センター	
目的	対象の健康上の問題を解決するための看護の展開方法を学ぶ。						
目標	1 看護を実践するための科学的思考プロセスとしての看護過程の概要を理解する。 2 看護過程を構成する要素とそのプロセス、また看護過程を用いることの意義について理解する。 3 問題解決過程やクリティカルシンキング、リフレクション、倫理的判断といった一連の看護過程の基本と展開方法を理解する。 4 アセスメント、看護診断、計画立案、実施、評価といった看護過程の各段階について理解する。 5 紙上事例の看護過程が展開できる。						
回	項 目	内 容			教授学習方法	備考	
1	看護過程とは	1 問題解決型アプローチとしての看護過程 (1) アセスメント (2) 看護問題の明確化(看護診断) (3) 看護計画の立案 (4) 実施 (5) 評価 2 看護理論に基づいたアセスメントの枠組み			講義		
2	アセスメントの視点	1 ゴードンの機能的健康パターンの概要 (1) IIの機能的健康パターン 2 機能的健康パターンとアセスメント			講義 演習		
3・4	看護問題の明確化 (看護診断)	1 看護の守備範囲と看護問題の区分 2 看護診断の表記方法 3 優先順位の決定			講義		
5・6	全体像の把握	1 病態関連図 2 全体関連図			講義 演習		
7	看護計画の立案	1 アセスメントの計画への活かし方 2 看護目標とその達成時期の設定 (1) 短期目標と長期目標 3 看護計画(OP・TP・EP)の立案方法			講義 演習		
8～12	看護過程展開	1 事例を活用した看護過程の展開			講義 演習		
13・14	実施	1 実施前の評価と実施後の評価 2 経過記録 (1) SOAP方式			講義 演習		
15	評価	1 評価の視点 2 日々の評価と評価日の評価 3 看護要約			講義		
	試験						

評価の方法：筆記試験（90点）、演習の参加状況・課題の提出（10点）

テキスト：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ 医学書院

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ 医学書院

看護診断ハンドブック 医学書院

看護過程に沿った対症看護 学研

看護形態機能学 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版会

令和 7 年 度 シ ラ バ ス (第 二 看 護 学 科)

31期生 1年次

授業科目		臨床看護総論	単位	I	学習時間数	30
担当教員			実務経験	主な実務経験場所		
	戸川 優子 (14)		(有)・無	山口県立総合医療センター		
	非常勤講師 (16)		(有)・無	備考参照		
目的	健康障害のある対象を理解し、各看護学に共通する看護の方法を学ぶ。					
目標	1 看護の思考のプロセスとなる臨床判断過程の基礎を理解する。 2 健康状態の経過に基づく看護を理解する。 3 主要な症状を示す対象者への看護を理解する。 4 治療・処置を受ける対象者への看護を理解する。 5 医療用器機の原理と実際を理解する。 6 地域社会の構成単位としての家族など、看護学における対象の捉え方と家族看護について理解する。					
回	項 目	内 容			教授学習方法	備考
1	イントロダクション	1 ガイダンス 科目の目的、学習内容と方法 2 ライフサイクルからとらえた対象者と家族の健康上のニーズ			講義	
2	健康状態の経過に基づく看護	1 急性期における看護 (1) 急性期の特徴 (2) 急性期の患者のニーズ (3) 急性期にある患者への看護援助 2 回復期における看護 (1) 回復期の特徴、リハビリテーション (2) 回復期の患者のニーズ (3) 回復期にある患者への看護援助			講義 グループワーク	
3		3 慢性期における看護 (1) 慢性期の特徴 (2) 慢性期の患者のニーズ (3) 慢性期にある患者への看護援助			講義 グループワーク	
4		4 終末期における看護 (1) 終末期の特徴 (2) 終末期の患者のニーズ (3) 終末期にある患者への看護援助			講義 グループワーク	
5・6		主要な症状を示す対象者への看護	1 健康状態の経過並びに主要な症状を示す対象の看護 (1) 主要症状(呼吸、循環、栄養)を示す対象の看護			講義 グループワーク
7	看護における臨床判断・臨床推論	1 臨床看護場面で遭遇する臨床判断・推論の実際 (1) 臨床判断のプロセス(Tannerの臨床判断モデルについて) (2) 臨床推論について (3) 事例に基づいたシナリオシミュレーション			講義 演習	訪問看護ステーション こころの樹 クリティカルケア
8		2 シミュレーション演習 (1) 呼吸・循環に異常のある患者の必要な観察 (2) ピア評価			講義 演習	認定看護師 日本DMAT隊員 磯本一夫
9						
10						
11	家族機能からとらえた看護	1 家族の機能からとらえた対象者と家族の健康上のニーズ (1) 家族形態の変遷 (2) 家族システムの機能と役割 (3) 家族の発達段階と発達課題 (4) 対象者と家族の健康上のニーズと看護			講義	
12	治療・処置を受けている対象者の看護	1 救急蘇生法を必要とする対象者への看護			講義 演習	山口県立総合医療センター 医師 角千恵子
13		2 身体侵襲を伴う検査・治療を受ける対象者への看護				
14	医療用器機の原理と実際	1 医療用器機の原理と実際 (1) 医療機器を安全に使うために			講義	都志見病院 臨床工学士 田村芳生
15		(2) 医療機器の原則と実際 (3) 医療機器使用時の看護				
試験						

評価の方法：筆記試験：戸川(60点)・磯本(20点)、演習の参加状況・課題の提出(20点)

テキスト：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学4 臨床看護総論 医学書院

看護過程に沿った対症看護 学研

令和7年度シラバス(第二看護学科)

31期生 1年次

授業科目		コミュニティ論Ⅰ	単位	Ⅰ	学習時間数	15
担当教員		実務経験	主な実務経験場所			
	村上 陽子：(14)	○・無	山口県立総合医療センター			
	非常勤講師：(2)	○・無	備考参照			
目的	看護の対象を生活者としてとらえ、地域で生活する人々の暮らしと地域の健康課題や暮らしを支える看護の役割を理解する。					
目標	1 看護の対象を生活者（各ライフステージ）として捉える。 2 生活の場としての地域（コミュニティ）を理解する。 3 地域の特性を把握し、各ライフステージや各健康レベルにある人々の健康ニーズを理解する。 4 地域・在宅看護の役割を理解する。					
回	項 目	内 容			教授学習方法	備考
1	暮らすということ 地域・在宅看護の役割	1 人々の暮らしの理解 (1) 暮らしとは (2) 暮らしと健康の関係 2 地域・在宅看護の役割 (1) 地域・在宅看護とは (2) 地域・在宅看護に求められる役割			講義 演習	
2	暮らしと地域	1 地域の定義と地域の多様性 2 システム理論 暮らしと地域を理解するためのシステム思考			講義 演習	
3	暮らしと地域 萩地域の特性	1 萩地域の特性や生活環境を知る (1) 人口の特徴 (2) 自然環境 (3) 社会的環境 (4) 文化的環境			講義	萩市保健部 地域医療推進課： 課長 神崎公克
4	暮らしと地域のかかわり 暮らしと健康のかかわり 暮らしと健康を支える 看護師の役割	1 フィールドワークのオリエンテーション (1) 人々の生活圏・生活環境 (2) そこに暮らす人々の思い (3) 健康観			協同学習 フィールドワーク	地域の施設など
5・6		2 フィールドワーク (1) 学校周辺の地域や生活環境 (2) 地域に暮らす人々の思いや健康観				
7		3 まとめのカンファレンス (1) 学校周辺の地域や生活環境 (2) 地域に暮らす人々の思い (3) 地域での暮らしと健康について (4) 地域・在宅看護の役割			協同学習 学習会	
8		4 学習会 (1) 学びの発表と意見交換 (2) まとめ				

評価の方法：事前課題（20点） 参加意欲・姿勢（主体性・協調性・誠実性）（30点）
グループ評価（30点） 課題レポート（20点）

テキスト：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅰ 地域・在宅看護の基盤 医学書院

令和7年度シラバス（第二看護学科）

31期生 1年次

授業科目		コミュニティ論2	単位	I	学習時間数	15
担当教員			実務経験		主な実務経験場所	
	村上 陽子：（3）		○・無		山口県立総合医療センター	
	非常勤講師：（12）		○・無		備考参照	
目的	地域で生活する場の多様性と地域包括ケアシステムにおける保健医療福祉の役割と連携を理解する。					
目標	1 地域で生活する場の多様性を理解する。 2 地域で生活する人々への健康の保持増進や疾病予防の支援について理解する。 3 福祉施設で生活する人々の生活支援について理解する。 4 障害者の生活支援について理解する。 5 在宅で生活する療養者とその家族がその人らしく生活できる支援を理解する。 6 地域包括ケアシステムの中での施設の役割及び多職種の連携について理解する。					
回	項 目	内 容		教授学習方法	備考	
1	地域で生活する人々の健康の支援	1 地域包括支援センター （1）地域包括ケアシステムの概念 （2）地域包括支援センターの役割 （自助・互助・共助・公助の意義と役割） （3）多施設・多職種連携		講義	萩市地域包括支援センター： 保健師 俣賀由紀子	
2		1 保健センターの機能と役割 （1）保健センターの機能と役割 （2）活動の実際 （3）多施設・多職種連携		講義	萩市保健センター： 保健師 大島裕子	
3	地域で療養する人々の生活支援	1 診療所 （1）地域の特徴と療養する人々の生活 （2）診療所の機能と役割 （3）多施設・多職種連携		講義	むつみ診療所： 看護師 野尻妙子	
4		1 訪問看護ステーション （1）地域で療養する人々の生活 （2）訪問看護ステーションの機能と役割 （3）多施設・多職種連携		講義	訪問看護ステーション：陽向 看護師 阿武由美子	
5	福祉施設で生活する人々の支援	1 特別養護老人ホーム・認知症高齢者グループホーム （1）福祉施設における人々の生活 （2）福祉施設の機能と役割 （3）多施設・多職種連携		講義	介護保険施設： はぎ園 生活指導員 北川宗生	
6	地域共生社会	1 障害者の生活支援 （1）地域で暮らす障害者の生活 （2）地域で障害者を支援する仕組み （3）多施設・多職種連携		講義	萩市福祉部福祉支援課： 保健師 石川佳世子	
7	地域包括ケアシステム	1 保健医療福祉の施設の役割と多職種連携 2 地域包括ケアシステムと地域共生社会		演習		
8	試験			試験		

評価の方法：筆記試験（50点） 課題・レポート（40点） グループ評価（主体性・協調性・誠実性）（10点）

テキスト：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論1 地域・在宅看護の基盤 医学書院

系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論2 地域・在宅看護の実践 医学書院

※地域・在宅看護の基盤：講義の関連領域

・第2章：C 地域包括ケアシステムと地域共生社会

・第3章：A 地域・在宅看護の対象者

・第4章：E 地域におけるライフステージに応じた看護

・第5章：地域・在宅看護の実践の場と連携

令和7年度シラバス(第二看護学科)

31期生 1年次

授業科目		成人看護学概論		単位	1	学習時間数	15
担当 教員			実務経験		主な実務経験場所		
	水津 達郎 (13)		○有・無		山口県立総合医療センター		
	非常勤講師 (2)		○有・無		備考参照		
目的	成人期にある対象の特徴を理解し、対象の健康維持・増進、疾病の予防・回復のための看護を学ぶ。						
目標	1 成人看護の意義と役割を理解する。 2 成人各期にある対象を、身体的・精神的・社会的側面から理解する。 3 成人における健康の維持・増進と健康に影響を及ぼす因子を理解する。 4 慢性病とともに生活する人を支える看護を理解する。 5 がん患者の看護を理解する。						
回	項 目	内 容			教授学習方法		備考
1	成人と生活	1 成人の生涯発達の特徴 成人期の身体的・心理・社会的特徴			講義 グループワーク	【テキスト】 成人看護学総論 看護のための人間発達学	
2		1 成人と生活 (1) 家族形態と機能 (2) 社会状況の変化と成人の生活					
3	成人を取り巻く 環境と生活から みた健康	1 生活習慣病の要因・健康問題の現状と推移 2 生活習慣病の是正			講義 グループワーク	【テキスト】 成人看護学総論 国民衛生の動向	
4		1 職業病に関連する健康問題とその予防 (1) 就労条件・環境と病気 (2) 職業性疾患の健康診断の受診行動					
5	慢性病とともに 生きる人を支え る看護	1 ストレスに関連する健康問題 (1) ストレス関連疾患の要因 (2) ストレス対処方法			講義 グループワーク	【テキスト】 成人看護学総論 中範囲理論入門	
6		1 慢性病とともに生きる人の理解と支援 (1) 病の軌跡 (2) セルフケアおよびセルフマネジメントへの支援 (3) 生活の再構築への支援 ・成人学習理論 ・エンパワーメント ・アドヒアランス ・自己効力感					
7	がん患者の 看護	1 がん患者の抱える苦痛に対するマネジメント 2 全人的苦痛へのケア 疼痛コントロール			講義	緩和ケア 県立総合医療センター 看護師：内田 恵	
8	試験						

評価の方法：筆記試験（水津100点）

テキスト：系統看護学講座 専門分野 成人看護学Ⅰ 成人看護学総論 医学書院
 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院
 看護のための人間発達学 医学書院
 中範囲理論入門 日総研

令和7年度シラバス（第二看護学科）

31期生 1年次

授業科目		老年看護学概論	単位	I	学習時間数	30
担当 教員			実務経験		主な実務経験場所	
	林 千恵子 (15)		(有)・無		山口県立総合医療センター	
	村上 陽子 (13)		(有)・無		山口県立総合医療センター	
	非常勤講師 (2)		(有)・無		備考参照	
目的		高齢者の身体的・精神的・社会的変化を理解する。また、高齢者をとりまく保健医療福祉の概要と課題を学ぶ。				
目標		1 老年期の特徴と加齢に伴う身体的・精神的・社会的側面を理解する。 2 高齢社会に伴う暮らしや健康への問題を理解する。 3 地域包括ケアシステムと保健・医療・福祉の動向と現在の概要を理解する。 4 高齢者の権利擁護について理解する。				
回	項 目	内 容		教授学習方法	備考	
1	老年期の理解	1 老年期の発達・変化 (1) 老いるということ (加齢と老化) (2) 高齢者と老年期 (3) 老年期における発達課題		講義	林	
2	加齢に伴う身体機能の変化	1 高齢者のヘルスアセスメント 2 加齢に伴う変化の特徴 (1) 身体的側面の変化 a 認知・知覚機能 b 呼吸・循環機能 c 消化・吸収・代謝機能 d 排泄機能 e 免疫機能 f 運動機能		講義 グループ ワーク		
3						
4						
5		(2) 精神的側面の変化 (3) 社会的側面の変化		講義		
6・7		1 高齢者疑似体験		演習		
8・9	超高齢社会と社会 保障	1 超高齢社会の統計的輪郭 (1) 超高齢社会の現況 (2) 高齢者と家族 (3) 高齢者の健康状態 (4) 高齢者の暮らし		講義	村上	
10		2 高齢社会における保健医療福祉の動向 (1) 地域包括ケアシステム (2) 高齢者とソーシャルサポート (3) 保健医療福祉システムの構築 a 保健医療福祉制度の変遷 b 介護保険制度 c 高齢者医療確保法		講義 グループ ワーク		
11		3 介護保険の実際		講義		
12・13	高齢社会における権利擁護	1 高齢者差別 2 高齢者虐待 3 身体拘束 4 権利擁護のための制度 5 エンドオブライフケア		講義	村上	
14	老年看護の理念	1 老年看護の成り立ち (1) 老年看護学教育の発展 (2) 老年看護の役割 (3) 老年看護における理論・概念の活用 (4) 老年看護に携わる者の責務		講義		
15		試験				

評価の方法：筆記試験・課題レポート（配点：林40点 村上60点）

テキスト：系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院
 国民衛生の動向 厚生統計協会
 看護のための人間発達学 医学書院

令和 7 年 度 シ ラ バ ス (第 二 看 護 学 科)

31期生 1 年次

授業科目		小児看護学概論		単位	1	学習時間数	30
担当教員	篠田 由佳里	実務経験	(有)・無	主な実務経験場所		山口県立総合医療センター	
目的	小児各期の成長・発達を理解し、それを支える社会、環境、保健医療福祉の制度や仕組みを理解する。また、小児看護の目的、役割を学ぶ。						
目標	1 小児の体の仕組みや特徴を理解する。 2 小児各期の成長・発達と発達課題を理解する。 3 小児の成長・発達に合わせた基本的生活習慣獲得の支援について理解する。 4 小児を取り巻く環境を理解し、保健・医療・福祉の動向から小児を取り巻く社会を理解する。 5 小児看護の目的・役割を理解する。						
回	項 目	内 容				教授学習方法	備考
1	小児看護の概念	1 小児の特徴 (1) 小児の概念の形成、小児看護の対象 (2) 小児看護の目的・目標・役割				講義 グループワーク	
2	小児の成長と発達	1 小児の分類 (1) 小児期の年齢区分 (2) 小児各期の発達課題				講義 個人ワーク グループワーク	
3	成長・発達の原則と影響因子	1 成長・発達の概念 2 成長・発達の原則 3 成長・発達に影響する因子					
4・5	形態的・機能的発達	1 小児各期の形態的発達の特徴 2 小児各期の機能的発達の特徴					
6	運動・知的・コミュニケーション・情緒・社会的発達	1 乳児期の特徴 2 幼児期の特徴					
7		3 学童期の特徴 4 思春期・青年期の特徴					
8・9	小児各期の日常生活の世話	1 食べる 2 トイレに行く（排尿・排便） 3 休憩する・眠る 4 お風呂に入る、身だしなみを整える 5 動く・活動する 6 事故予防・安全対策（環境のアセスメント・調整）				講義	
10	小児看護の特徴	1 小児と家族				講義	
11		2 小児看護の特徴 (1) 小児看護の歴史 (2) 諸統計からみた小児と家族の健康問題					
12	子どもの権利	1 小児医療における子どもの権利の変遷 2 権利擁護<アドボカシー> 3 インフォームドコンセントとインフォームドアセント				講義 グループワーク	
13	健康生活と法律・制度	1 母子保健施策の活用と子育て支援 2 小児の福祉と虐待防止 3 小児慢性特定疾患治療研究事業				講義 グループワーク	
14		4 学校保健 5 予防接種					
15	試験						

評価の方法：筆記試験（95点）・個人ワーク（5点）により総合的に評価する。

テキスト：系統的看護学講座 専門分野 小児看護学1 小児看護学概論 医学書院
 系統的看護学講座 専門分野 小児看護学2 小児臨床看護各論 医学書院
 国民衛生の動向 一般財団法人厚生労働統計協会
 看護のための人間発達学 医学書院

令和 7 年 度 シ ラ バ ス (第 二 看 護 学 科)
31期生1年次

授業科目		母性看護学概論		単位	I	学習時間数	30
担当教員	小西 恵	実務経験	⑦・無	主な実務経験場所		都志見病院	
目的	母性の特性を理解し、母子及びその家族の健康の保持・増進、疾病の予防のための看護を学ぶ。						
目標	1 母性看護の概念を理解する。 2 人間の性と生殖の意義を理解する。 3 母性看護の対象の身体的・心理的・社会的特徴を理解する。 4 母性看護の沿革と現状を理解する。 5 母子保健活動と看護の役割について理解する。 6 女性のライフステージにおける身体的・精神的・社会的特徴を理解する。 7 女性の生涯をとらえた健康問題と看護について理解する。 8 リプロダクティブヘルスにおける健康問題とその看護を理解する。						
回	項 目	内 容			教授学習方法		備考
1	母性看護の 概念	1 母性、父性、親性 2 家族の発達・機能 (1) 家族を中心としたケア (2) 産後クライシス			講義 グループワーク		
2		3 性の概念 4 セクシュアリティ 5 人間の性と生殖の意義			講義 グループワーク		
3		6 リプロダクティブヘルス/ライツ (1) 女性を中心としたケア 7 母性看護学で用いられる理論 (1) 愛着、絆 (2) 母親役割獲得の過程			講義 グループワーク		
4		(3) 母子相互作用 (4) 父子相互作用 8 プレコンセプションケア 9 母性看護における倫理			講義 グループワーク		
5	人間の性と生殖	1 女性生殖器の機能 2 性周期と生殖機能のメカニズム 3 妊娠と胎児の性分化 4 未分化疾患の人のケア			講義 DVD視聴		
	母性の特性	1 母性の発達・成熟・継承 2 母性の世代間伝達			講義		
6	母性看護の 沿革と現況	2 母性看護の歴史的変遷 3 母子保健統計 4 母性看護に関する組織・法律・施策 5 母性看護の対象を取り巻く環境			講義 グループワーク		
7	母子保健活動と 看護の役割	1 女性のライフサイクルと家族 2 女性のワークライフバランス 3 母子保健活動内容、活動の場 4 周産期医療システム 5 母性看護の役割			講義 グループワーク		
8・9・ 10	女性のライフス テージ各期にお ける看護	1 ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性 2 思春期の健康と看護 (1) 身体的・心理的・社会的特徴 (2) 性意識・性行動の発達 (3) 月経異常 (4) 性感染症 3 成熟期の健康と看護 (1) 身体的・心理的・社会的特徴 (2) 子宮筋腫、子宮内膜症			講義 グループワーク		
11・12		(3) 家族計画・受胎調節			講義 グループワーク		
13		4 更年期の健康と看護 (1) 身体的・心理的・社会的特徴 (2) 更年期障害 5 老年期の健康と看護 (1) 身体的・心理的・社会的特徴 (2) 骨盤臓器脱、老人性肺炎・外陰炎			講義		
14	リプロダクティ ブヘルスケア	1 性暴力、DVを受けた女性に対する看護			講義 動画視聴 グループワーク		
15	試験						

評価の方法：筆記試験（90点）課題（10点）

テキスト：系統看護学講座 専門分野 母性看護学概論 母性看護学Ⅰ 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論 母性看護学Ⅱ 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 女性生殖器 成人看護学Ⅸ 医学書院
 国民衛生の動向 厚生労働統計協会

令和7年度シラバス(第二看護学科)

31期生 1年次

授業科目		精神看護学概論 (基本概念・精神保健)	単位	1	学習時間数	20
担当 教員			実務経験	主な実務経験場所		
	高島 雄太: (18)		○有・無	山口県立こころの医療センター		
	非常勤講師: (2)		○有・無	備考参照		
目的	精神看護の対象やこころの健康について学び、こころの健康の保持・増進するため看護の役割を学ぶ。					
目標	1 こころの機能と発達について理解する。 2 危機的状況とその介入方法を理解する。 3 各ライフサイクル別に見られるこころの発達と健康問題について理解する。 4 精神医療の歴史的変遷を理解する。 5 リエゾン看護について理解する。 6 精神障害のある対象が地域で生活していくために必要な法制度や支援システムを理解する。					
回	項 目	内 容			教授学習方法	備考
1	こころの機能と発達	1 精神力動論 2 適応(防衛)機制			講義	
2・3	危機的状況とこころの働き	1 危機の概念 2 危機介入、危機と予防 3 ストレスと対処 4 災害時の精神保健医療活動			講義	
4・5・6	環境とこころの健康	1 暮らしの場とこころの健康 2 教育の場とこころの健康 3 職場とこころの健康 4 地域社会とこころの健康			講義 グループワーク	
7	精神医療の変遷	1 諸外国における精神医療の歴史 2 日本における精神医療の歴史 3 精神科チーム医療と看護			講義	
8	精神保健医療福祉に関連する法制度	1 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律			講義	
9	地域精神保健活動の実際	1 精神保健福祉センターの実際 2 精神保健医療福祉における多職種連携			講義	精神保健福祉センター 保健師: 佐野佐恵美
10	試験					

評価:筆記試験・レポート・グループワーク内容を総合的に評価(高島100点)

テキスト :系統看護学講座 専門分野 精神看護学1 精神看護学の基礎 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 精神看護学2 精神看護学の展開 医学書院

令和7年度シラバス(第二看護学科)

授業科目	基礎看護学実習 (看護の思考過程を基に日常生活援助を学ぶ実習)	担当 教員	戸川 優子	開講 年次	1年次	単位数	2	時間数	90
実務経験	臨地実習のため、「実務経験のある教員等による授業科目」に該当								
目的	対象を理解し、対象に応じた看護ができる基礎的能力を養う。								
目標	1 対象を身体的・精神的・社会的側面から健康・生活状態を理解し、健康上の課題を判断する。 2 健康上の課題を解決に導く方法を身につける。 3 看護計画に基づいた日常生活援助を実施する。 4 対象との援助関係を形成する基礎的能力を身につける。 5 看護師の役割と責任を理解し、誠実性・協調性・積極性を身につける。 6 保健医療福祉チームの一員として看護の役割を理解する。 7 実習をとおして、その人らしい生活を支える看護について考える。								
実習計画	1 実習期間 11日間 2 実習施設 都志見病院 3階病棟 6階病棟 萩市民病院 東病棟 西病棟 3 実習方法 1人の患者を受け持ち、看護過程を展開し、日常生活の援助を行う。 (1) 実習オリエンテーション(実習2日目) (2) 事例の検討(実習6日目頃) 実習指導者と全体像、看護診断、看護計画を検討する。 (3) 学びの会(実習10日目) (4) 学内実習日 (実習1日目) 対象理解に向けて、受け持ち事例について学習を行う。 事例に合わせた技術練習を行う。 (実習7日目頃) テーマカンファレンス 全体像、看護診断、看護計画を修正する。 事例に合わせた技術練習を行い、援助計画を修正する。 (実習11日目) 実習での経験を振り返り、自己の学びをまとめる。 文献でエビデンスを確認する。 グループで情報共有を行い、学びを深める。								
評価方法	実習評価表に基づき、実習場面の観察、実習記録の記載状況、個人面接、実習レポート、カンファレンスの参加状況などを総合的に評価する。								
テキスト	専門基礎分野並びに専門分野の科目、基礎看護学技術Ⅰ・Ⅱ、臨床看護総論、配布資料								

令和 7 年度 シラバス (第 二 看 護 学 科)

授業科目	コミュニティ実習	担当 教員	村上 陽子	開講 年次	Ⅰ年次前期	単位数	Ⅰ	時間数	45
実務経験	臨地実習のため、「実務経験のある教員等による授業科目」に該当								
目的 地域で暮らす人々の生活の場の多様性を知るとともに看護の場の多様性について学び、医療や看護に対するニーズに気付く。									
目標 1 地域で暮らす人々の生活の多様性とその生活環境を理解する。 2 地域の暮らしを支える保健医療福祉活動を知り、健康の維持・増進の取り組みを考える。 3 医療や看護に求められているニーズについて考える。 4 看護師の役割と責任を理解し、誠実性・協調性・積極性を身につける。 5 コミュニティ実習をとおして、その人らしい生活を支えるための看護を考える。									
実習計画 1 実習期間 6日間 2 実習施設 保健センター 地域包括支援センター 訪問看護ステーション グループホーム デイサービスセンター 病院 3 実習方法 実習ラウンド表に基づき、グループに分かれ実習する。 (1) 同行実習 実習開始時、施設のオリエンテーションを受ける。(施設の概要) 指導者に同行し、地域で暮らす人々の生活の場と暮らし方を見学する。 指導者に同行し、地域で暮らす人々への関わりを見学する。 実習終了時、各施設で振り返りを行う。 (2) 学内学習日 (実習6日目) 全体学習会 実習施設毎に実習の学びをまとめる。(ICTの活用) 全体学習会で実習施設毎の学びを共有する。									
評価方法 実習評価表に基づき、実習場面の観察、実習記録の記載状況、個人面接、実習レポート、カンファレンスの参加状況などを総合的に評価する。									
テキスト 講義・実習オリエンテーションで指示したテキスト及び資料									